

# 中学生の和装意識と浴衣の嗜好傾向に関する実態分析

孫 珠熙 (孫 珠熙)<sup>1</sup> 表 奈緒<sup>2</sup>

## An Analysis of Junior High School Students' Attitudes toward Kimono and Trends in Their Yukata Preferences

Ju-Hee SOHN、Nao OMOTE

### 概要

本研究の目的は、TPOが異なるカジュアルな和装である温泉浴衣を題材に、男女中学生の『和装文化に関する意識』(測定尺度30項目、6件法)、『実物浴衣の嗜好傾向』(実物ゆかた15着、複数回答)を検討することであった。『実物温泉浴衣の嗜好傾向』については、15着を用意し、着装体験と視覚評価により行われた。中学3年生男女計152名(男子84名、女子68名)を分析対象とし、性別の特徴を検討した。データ分析の結果、男女中学生の『和装文化に関する意識』は3因子『個性表現』、『着装意欲』、『知的探求』の構造であった。いずれの因子においても、女子は正の因子得点、男子は負の因子得点を示した。実物浴衣の視覚評価による嗜好傾向では、性別で浴衣の好みに違いがみられた。男子中学生は幾何学模様の寒色系の渋い色調、女子中学生は花柄のパステル系の明るい色調が好まれた。

キーワード：和文化体験、衣生活、浴衣(ゆかた)、中学生、嗜好

Keywords : experiencing japanese culture , clothing life, yukata, middle school students, preferences

### I. 緒 言

学習指導要領(平成29年告示)解説において、「高等学習指導要領の改訂のポイント」や「幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂ポイント」には「3. 教育内容の主な改善事項(伝統や文化に関する教育の充実)」が求められている[1-1]。家庭科教育の被服分野との関連は「和装の取扱いを重視」の記述がある[1-2]。

中学校の「家庭科」教育では、1970年代ごろ女子は浴衣製作などを通して専門的な和裁を学んでいたが、1990年代に入ると中学校学習指導要領の改訂により以前まで行っていた専門的な和裁を学ぶ授業がなくなっていった。そこで、日本からきもの文化(kimono culture)が衰退してしまうという危機感から2010年の学習指導要領改訂によって「和装教育」が中学校家庭科の中で必修化となった。しかし、現在では、1990年代に和装教育が衰退してしまったという影響から和服に馴染みのない教員が増えている。

一方で、アパレル・ファッション産業の発達に伴い、和装の浴衣も多様化・個性化している。また、「モノ」への消費より「コト」への消費志向の現代では、被服教育における感性も重視されるようになった。そこで、被服心理学分野は感性の定量化を図るため、指針となる図書が刊行された[2-8]。

和装の振袖、イベント用のゆかたについては多数の研究[9,10]がみられるが、温泉宿で着る浴衣(ゆかた)に関する研究は筆者の研究[11-16]以外にはあまり見当たらない。イベントやハレの場で着るゆかたと温泉宿で着る温泉浴衣には着用季節(T)、着用場所(P)、着用場面・用途(O)、着付けの仕方、着用時の気分(ワクワク感とリラックス感)、などがそれぞれ異なる[8,11]。

これまで旅館宿用の温泉浴衣写真を試料とし嗜好傾向[13]や浴衣の類型化と行動[16]を明らかにした。実物浴衣の印象評価[15]は6着をSD法で評価した。本研究と異なる点は実物浴衣15着を試料に用いたことや家庭科教育の観点から着装体験を伴ったこと、さらに男女中学生を対象にした点が異なる。

そこで、本研究ではカジュアルな和装として温泉浴衣を題材に、中学生の「和装文化に関する意識」、「浴衣の嗜好傾向」を明らかにする。

### II. 調 査 方 法

#### 2-1 調査対象者の基本属性

調査対象者の基本属性を表1に示す。

<sup>1</sup> 富山大学人間発達科学部

<sup>2</sup> 富山県立となみ野高等学校

表1 調査対象者の基本属性、人数 (%)

附属中学校	男子	女子	計
3年生 (%)	84 (56%)	68 (44%)	152 (100%)

富山県のT附属中学校の3年生を対象に質問紙調査を行った。男女152名(男子84名、女子68名)を対象とした。低学年より高学年の方が和装における感性が豊富であるため、高学年層を対象とした。

## 2-2 調査時期とサンプルの提示様子

調査時期は2017年9月である。授業では一度も和服や浴衣に関しての授業は受けておらず、これまでの自身

の経験からのみ質問紙に答えてもらった。サンプルの提示様子は、教室の前方に実物の温泉浴衣15着を提示し、実際に見て、触って、着用した後、アンケートに回答してもらった(図1)。

## 2-3 調査内容(浴衣に関する意識)

質問項目は、これまでの研究[12,14,16～19]を参考に独自で作成した。

測定尺度の内容は、「被験者自身についてのフェースシート項目」、「和服についての関心・意欲を問う意識調査の30項目、6件法」、「実物温泉浴衣15着の嗜好傾向の項目(複数回答)」、3構成でできている。

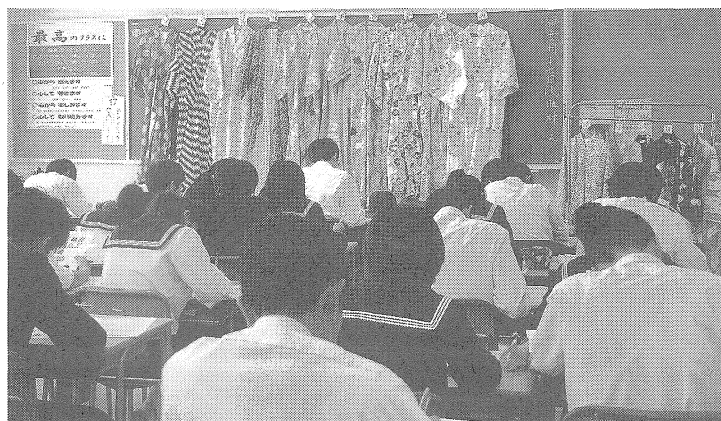


図1 アンケート調査時の様子 実物温泉浴衣15種

表2 和服に関する意識調査についての質問項目6件法例(全30項目中5項目)

	あてはまる	ややあてはまる	わずかにあてはまる	あてはまらない	ややあてはまらない	あてはまらない
浴衣を着る機会がある(年一回以上)	6	5	4	3	2	1
浴衣を着る機会が増えて欲しい	6	5	4	3	2	1
浴衣の管理は難しいと思う	6	5	4	3	2	1
もっと浴衣について知りたい	6	5	4	3	2	1
浴衣の製作過程について知りたい	6	5	4	3	2	1



図2 温泉浴衣着用体験時 (A)



図3 温泉浴衣着用体験時 (B)

意識調査の評定は、6件法（6.あてはまる、5.ややあてはまる、4.わずかにあてはまる、3.わずかにあてはまらない、2.ややあてはまらない、1.あてはまらない）までの6段階の自己評定方式で測定した（表2）。

#### 2-4 提示サンプル浴衣 15 着の試料と選定方法

和柄の綿生地を購入し浴衣を製作することは費用や時間がかかる。さらに、温泉地用途の浴衣専門販売店は国内に存在していない。そこで観光客宛の浴衣販売、海外のホームステイ先の訪問時にお土産用途（期限限定販売）や旅館浴衣販売会社に直接訪問し購入した。試料は伝統柄・和風モダンな柄、地色や柄模様が多様に網羅できるように配慮した。

#### 2-5 調査の手順と温泉浴衣の着体験

アンケート調査を行った手順としては、浴衣の視覚効果を測定するために、見やすく陳列をした。同時に温泉浴衣のサンプル 15 種を撮影したカラー写真印刷 A4 用紙を配布した。質問紙に回答し、途中で実際の温泉浴衣に触れてみたり、着てみたりし、温泉浴衣着用体験も行った。この時は着体験を希望している生徒のみで実施した。各自着てみたい浴衣を手に取り、生徒間で着付けをしあったり、浴衣に合わせた帯を各自で選んだりして着用体験も織り交ぜながらアンケートを実施した。その際、男女区別なく、自分で着てみたい浴衣を選んでもらった（図2、図3）。

#### 2-6 分析方法

データの集計・分析には、IBM SPSS Statistics23.0Jを使用した。単純集計、男女の平均値の差の検定（t検定）、因子分析（最尤法、プロマックス回転）を行った。研究倫理に従い無記名で調査を実施した。

### Ⅲ. 結果 及び 考察

#### 3-1 和服に関する意識にみる男女中学生の違い

和服に関する興味・意識を問う質問項目 30 項目（6件法）において、男女でも検定を行ったところ、30 項目中 21 項目で有意差があった（表3）。最も平均値が高かった項目は男女共に質問項目「24. 浴衣は日本が誇る文化だ」であった。一方、最も評定平均値が低かった項目は、男子は「7. 着崩れた浴衣を着なおすことができる」で、女子は「21. 浴衣を着るのは恥ずかしい」であった。男子のほうが女子よりも評定平均値が高く、有意差の大きい項目はなかった。

一方で、女子のほうが男子よりも評定平均値が高く、有意差の大きい項目は 30 項目中 12 項目「1. 浴衣を着る機会がある」「2. 浴衣を着る機会が増えてほしい」「8. 浴衣を自分で着られるようになりたい」「9. 浴衣を着てみたい」「10. 夏になると浴衣を着たくなる」「11. 浴衣を着ると気分が高揚する」「15. 浴衣を着ると上品に見える」「19. 浴衣を着るとかっこいい、かわいいと思う」「20. 浴衣にあったヘアスタイルをしたい」「21. 帯の配色にも気を配りたい」「27. 和服といえば浴衣でなく着物だ」「29. 温泉施設では自分の好きな浴衣を選びたい」の 12 項目が 0.1%水準で有意差がみられる結果となった。すなわち、女子は男子に比べ、浴衣着用への好奇心があることが読み取れる。また、着用の際は着用時の見た目も重視し、自分なりの着こなしや自分の好きな浴衣、ヘアスタイルを選びたいことが分かった。これらは、自分らしさ、個性表現への願望があると考えられる。

#### 3-2 「和服に関する意識」の因子分析（男女全体）

中学生における「和服に関する意識」の特徴をより総合的に捉えるために、それぞれの 30 質問項目に対して平均値と標準偏差をチェックし、男女込みで因子分析（最

表3「和服に関する意識」(男女間の平均値の差の検定)

測定尺度 30 項目	男子		女子		t 値	p
	平均値	SD	平均値	SD		
1. 浴衣を着る機会がある	2.2	1.638	3.8	2.090	-5.052	***
2. 浴衣を着る機会が増えてほしい	2.3	1.596	4.3	1.740	-6.991	***
3. 浴衣の管理は難しいと思う	5.0	1.481	4.8	1.367	.588	
4. 浴衣について知りたい	3.3	1.622	4.0	1.550	-2.703	*
5. 浴衣の制作過程について知りたい	3.0	1.712	3.4	1.518	-1.863	
6. 洋服と和服の構成の違いについて知りたい	3.0	1.581	3.6	1.558	-2.185	
7. 着崩れた浴衣を着なおすことができる	2.1	1.554	2.8	1.775	-2.530	
8. 浴衣を自分で着られるようになりたい	3.4	1.725	4.7	1.479	-4.845	***
9. 浴衣を着てみたい	3.2	1.784	4.7	1.546	-5.634	***
10. 夏になると浴衣を着たくなる	2.4	1.659	3.9	1.975	-5.209	***
11. 浴衣を着ると気分が高揚する	2.5	1.611	3.9	1.843	-5.000	***
12. 浴衣を着るのは恥ずかしい	2.7	1.556	2.6	1.569	.607	
13. 雨の日の浴衣は不向きだ	4.3	1.741	4.7	1.491	-1.463	
14. 浴衣を着るといつもと違う自分になれる	3.5	1.762	4.2	1.594	-2.859	*
15. 浴衣を着ると上品に見える	4.0	1.725	5.0	1.338	-3.797	***
16. 浴衣を着ると個性表現できる	3.6	1.703	4.1	1.547	-1.749	
17. 浴衣を着るとおしゃれに見える	3.5	1.716	4.1	1.734	-2.210	*
18. 相手の印象が変わる	4.2	1.743	4.9	1.208	-2.805	**
19. かっこいい、かわいいと思う	3.8	1.813	4.8	1.408	-3.694	***
20. 浴衣にあったヘアスタイルをしたい	2.7	1.807	4.9	1.474	-8.167	***
21. 帯の配色にも気を配りたい	3.3	1.780	4.9	1.592	-5.596	***
22. 改良浴衣を着てみたい	2.4	1.627	2.8	1.833	-1.692	
23. 浴衣を着るとマナーや行動を意識するようになる	3.3	1.894	4.1	1.690	-2.523	*
24. 浴衣は日本が誇れる文化だ	4.9	1.657	5.4	.998	-2.348	*
25. 和服の伝統文化について知りたい	3.7	1.792	4.3	1.606	-2.232	*
26. 外国人に浴衣を着てもらいたい	4.2	1.781	4.9	1.370	-2.472	*
27. 和服といえば浴衣でなく着物だ	3.6	1.747	4.4	1.363	-3.213	***
28. 温泉浴衣を着るだけでも和文化体験になると思う	3.9	1.699	4.7	1.381	-3.053	**
29. 温泉施設では自分の好きな浴衣を選びたい	3.7	1.907	5.1	1.364	-4.858	***
30. 温泉浴衣を着るとリラックスできる	3.7	1.790	3.9	1.729	-.855	

\*:  $p < 0.05$ , \*\*:  $p < 0.01$ , \*\*\*:  $p < 0.001$ 

尤法・プロマックス回転)を行ったところ、各因子に十分な負荷量を示さない7項目を分析からはずし、残りの23項目に対して再び因子分析を行った。固有値の減衰状況と因子の解釈可能性から3因子が妥当であると考えられた。

23項目による全分散のうち3つの因子によって説明できる割合の累積寄与率は59.05%であった。各因子は以下のように解釈された。

第1因子は11項目からなり、「19. かわいく、かっこよく浴衣を着たい」「15. 浴衣を着ると上品に見える」「21. 帯にも気を配りおしゃれに着たい」「18. 相手の印象が変わる」「26. 外国人に浴衣を着てもらいたい」「24. 浴衣は日本が誇れる文化だ」「16. 個性表現ができる」「17. 浴衣はおしゃれに見える」「28. 温泉浴衣を着るだけでも和文化体験ができる」「14. 浴衣を着るといつもと違う自分になれる」「30. 温泉浴衣を着るとリラックスできる」

といった項目群からなる。この因子は和服や浴衣に関して周りやいつもの自分と違った格好をしたいという気持ちを重視した項目によって構成されていることから『個性表現』の因子と命名した。

第2因子は8項目からなり、「10. 夏になると浴衣を着たくなる」「9. 浴衣を着たい」「2. 浴衣を着る機会が増えてほしい」「9. 浴衣を着ると気分が高揚する」「8. 浴衣を自分で着られるようになりたい」「29. 自分の好きな浴衣を選びたい」「20. 浴衣にあったヘアスタイルをしたい」「23. 浴衣を着るとマナーや行動を意識する」といった項目群からなる。この因子は浴衣に関する着用に意欲を表していた項目によって構成されていることから『着装意欲』の因子と命名した。

第3因子は4項目からなり、「5. 浴衣の制作過程を知りたい」「4. 浴衣について知りたい」「6. 洋服と和服の

違いについて知りたい」「25. 伝統文化を知りたい」といった項目群からなる。この因子は和服や浴衣に関しての興味・関心が強い項目によって構成されていることから『知的探求』の因子と命名した（表4）。

### 3-3 男女別にみた和服に関する意識の因子得点の比較

表2の結果に沿って各因子の因子得点の平均値を算出

することで、「個性重視」得点、「着装意欲」得点、「知的欲求」得点とした。「和服に関する意識について、より総合的にみるために、男女別の各因子の因子得点の平均値を比較した（図4）。

男女差の検討を行ったところ、「FⅠ個性重視（ $p < 0.001$ ）」、「FⅡ着装意欲（ $p < 0.001$ ）」、「FⅢ知的欲求（ $p < 0.05$ ）」の3ついずれの得点においても男子より女子

表4 和服に関する意識調査：因子分析（N= 男女 152 名）

測定尺度 23 項目	因子負荷量		
	F1 個性表現	F2 着装意欲	F3 知的探究
19 かっこいい、かわいいと思う	.816	.637	.429
15 浴衣を着ると上品に見える	.764	.617	.502
21 帯の配色にも気を配りたい	.740	.567	.462
18 相手の印象が変わる	.737	.498	.444
26 外国人に浴衣を着てもらいたい	.735	.528	.533
24 日本が誇れる文化だ	.734	.438	.422
16 個性表現できる	.729	.469	.496
17 おしゃれに見える	.717	.594	.594
28 温泉浴衣を着るだけでも和文化体験になる	.678	.557	.503
14 浴衣を着るといつもと違う自分になれる	.639	.595	.401
30 温泉浴衣を着るとリラックスできる	.620	.546	.435
10 夏になると浴衣を着たくなる	.547	.856	.496
09 浴衣を着てみたい	.666	.850	.551
02 浴衣を着る機会が増えてほしい	.508	.845	.571
11 浴衣を着ると気分が高揚する	.586	.786	.465
08 浴衣を自分で着られるようになりたい	.664	.777	.604
29 自分の好きな浴衣を選びたい	.611	.702	.420
20 浴衣にあったヘアスタイルをしたい	.649	.676	.330
23 浴衣を着るとマナーや行動を意識する	.564	.567	.404
05 浴衣の制作過程について知りたい	.520	.491	.864
04 浴衣について知りたい	.551	.594	.802
06 洋服と和服の構成の違いについて知りたい	.475	.519	.794
25 和服の伝統文化について知りたい	.670	.461	.754
累積寄与率 (%)	48.71	53.74	59.05
因子抽出法：最尤法、プロマックス回転法			

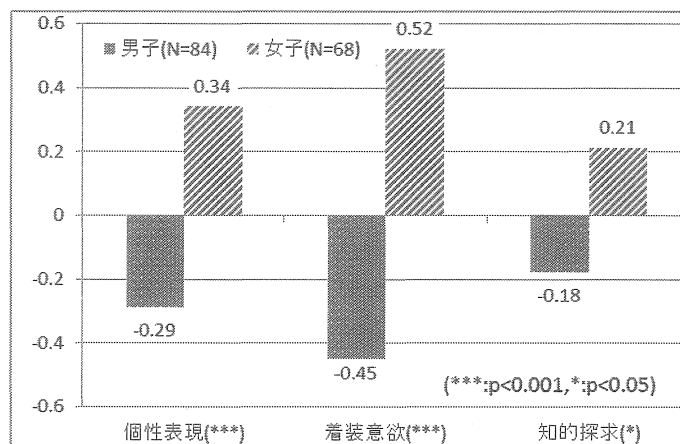


図4 和服に関する意識の因子得点（男女比較）

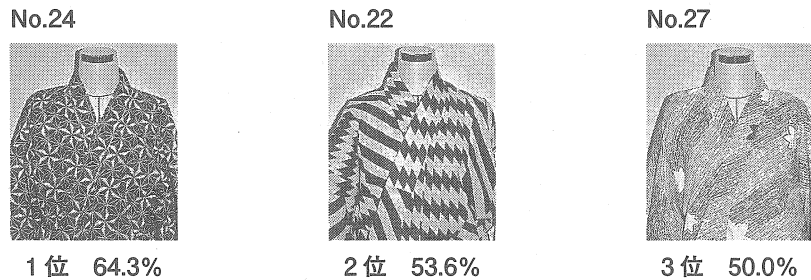


図5 15種類の実物温泉浴衣サンプル、上位3着（男子/N = 84、100%）

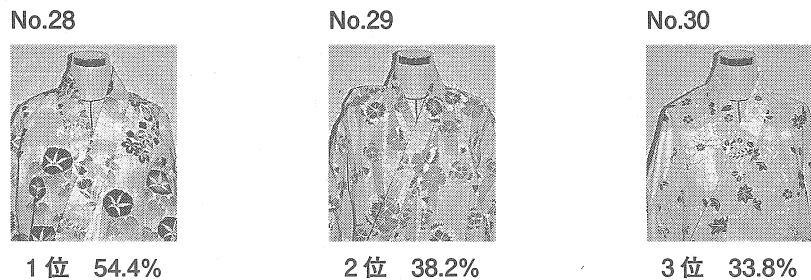


図6 15種類の実物温泉浴衣サンプル上位3着（女子/N = 68、100%）

のほうが有意に高い得点を示した。このことから、男子よりも女子のほうが和服に関する意欲が高いことがわかった。

これは、女子のほうに美意識が高く、好奇心があり、浴衣着用の経験が多いことが影響していると考えられる。男女でファッション行動に違いがあることを明らかにした事例研究 [11,14,18] と同様な結果を示した。そして衣服の快適性において男子は機能性を重視し、女子は衣服の感性（気分や感情）を重視していることが明らかとなった。

### 3-4 男子中学生が抱く実物温泉浴衣嗜好傾向

15着の実物温泉浴衣サンプルにおいて男子が最も好んだ浴衣上位3種を図5に示す。

男子が好む実物温泉浴衣の地色はWhite（白）やBlue（青）が、柄の色はBlue（青）やNavy（紺）、Light Blue（水色）であることがわかる。柄の配置については実物温泉浴衣サンプルNo.（24）（22）（27）のすべてにおいて、柄が浴衣全体にまんべんなく配置されているものが好まれている。

『15種類の実物温泉浴衣サンプル』のポジショニング・マップの位置関係を調べるために、多次元尺度法を用いて、2次元平面上に距離（＝類似）のデータから、各浴衣の座標を求めた。その結果の図は黑白版の印刷では色の説明で限界があるため本報では省略する。座標が近くにある浴衣は似たようなデザインになっていることが分かる。

右上は「モダン＋花柄／カラフルな」、右下は「オーソドックス＋花柄／カラフルな」であることが分かる。左上は「モダン＋幾何学柄／単調な」と解釈でき、左下

は「オーソドックス＋幾何学柄／単調な」と解釈できる。さらに、2次元の縦横軸に関しては、縦軸を「モダン－オーソドックス」、横軸を「幾何学柄／単調な－花柄／カラフルな」と解釈した。以下は15種類の実物温泉浴衣サンプルの中で男子に好まれたものと順位である。

15種類の実物浴衣サンプルの中で男子の好む上位の浴衣No.（24）（27）の2種類が左下の「オーソドックス＋幾何学柄／単調な」に位置している。No.（22）の浴衣は左上の「モダン＋幾何学柄／単調な」に位置付けられている。このことから男子は幾何学柄で単調なデザインの浴衣で、華美な柄よりも質素な寒色系の浴衣を好む傾向があることが分かる。

### 3-5 女子中学生が抱く実物温泉浴衣嗜好傾向

15種類の実物温泉浴衣サンプルにおいて女子が最も好んだ浴衣上位3種を図6に示す。

女子が好む実物温泉浴衣の地色はWhite（白）が、柄の色はNavy（紺）、Light Blue（水色）、Pink（ピンク）、Purple（紫）、Red（赤）であり、寒色系と暖色系に分けることができる。柄の配置については実物温泉浴衣サンプルNo.（28）（29）（30）のすべてにおいて、柄が浴衣全体にまんべんなく、ランダムに配置されているもので、かつ、花柄が好まれていることがわかる。

『15種類の実物温泉浴衣サンプル』のポジショニング・マップの位置関係を調べるために、多次元尺度法を用いて、2次元平面上に距離（＝類似）のデータから、各浴衣の座標を求めた。その結果の図は黑白版の印刷では色の説明で限界があるため本報では省略する。座標が近くにある浴衣は似たようなデザインになっていることが分かる。右上は「モダン＋幾何学柄／単調な」、右下は「オー



ソドックス+幾何学柄/単調な」であることが分かる。左上は「モダン+花柄/カラフルな」と解釈でき、左下は「オーソドックス+花柄/カラフルな」と解釈できる。

さらに、2次元の縦横軸に関しては、縦軸を「モダン-オーソドックス」、横軸を「花柄/カラフルな-幾何学柄/単調な」と解釈した。赤色の点線と数字は15種類の実物温泉浴衣サンプルの中で女子に好まれたものと順位である。15種類の実物浴衣サンプルの中で女子の好む上位の浴衣No.(29)(30)の2種類が左上の「モダン+花柄/カラフルな」に位置している。女子の中で最も好まれていたNo.(28)の浴衣は左下の「オーソドックス+花柄/カラフルな」に位置付けされている。

このことから女子は花柄でカラフルな浴衣を好み、中でもパステルカラーの女性らしい浴衣を好む傾向があることが分かる。

#### Ⅳ. 結 言

本研究では、和装において晴れのゆかたとはT・P・Oが異なるカジュアルな温泉浴衣を題材に、中学生の和装文化に関する意識や浴衣の嗜好傾向を明らかにすることを目的とした。着装体験と視覚評価の試料には、実物温泉浴衣15着を用意し、中学3年生男女計152名(男子84名、女子68名)を対象に、質問紙調査を行った。その結果、次のことが明らかになった。

- 1) 和服に関しての興味・意識を問う質問項目30項目(6件法)において、男女でも検定を行ったところ、30項目中21項目で有意差があった。女子は男子に比べ、浴衣着用への好奇心があることが読み取れる。また、着用の際は着用時の見た目も重視し、自分なりの着こなしや自分の好きな浴衣、ヘアスタイルを選びたいことが示唆された。これらは、自分らしさ、個性表現への願望があると考えられる。
- 2) 男子中学生が好む実物温泉浴衣の地色はWhite(白)やBlue(青)が、柄の色はBlue(青)やNavy(紺)、Light Blue(水色)である。柄の配置については柄が浴衣全体にまんべんなく配置されているもの、ストライプやジグザグのパターンの幾何学模様の渋い色調が好まれた。
- 3) 女子中学生の好む浴衣の色相傾向は、15着の実物温泉浴衣において、White(白)地色に加え、Light Blue(水色)が好まれた。柄の色はNavy(紺)、Light Blue(水色)、Pink(ピンク)、Purple(紫)、Red(赤)であり、寒色系と暖色系の明るい色調が好まれることが分かった。女子中学生は、上位3種類ともに小中の花柄が選ばれた。
- 4) 中学生における「和服に関する意識」の特徴をより総合的に捉えるために、因子分析を行った。最終的に23項目で3因子『個性表現』、『着装意欲』、『知的探求』

の構造が妥当と考えた。

- 5) 「和服に関する意識」の各因子の因子得点を基に男女差を検討した。「FⅠ個性重視( $p < 0.001$ )」「FⅡ着装意欲( $p < 0.001$ )」「FⅢ知的欲求( $p < 0.05$ )」の3ついずれの因子得点においても男子は負の得点、女子は正の得点を示した。このことから、男子よりも女子のほうが和服に関しての意欲が高いことがわかった。

以上、中学校3年生子ども世代の和装意識と実物浴衣の嗜好傾向は、性別で違いがみられた。和装行動は女子の方が男子より興味・関心が高いことが示唆された。温泉宿では男女同様の1種の浴衣を貸し出しする例が少ない状況である。しかし成人の身長に近い中学3年生は、性別で温泉浴衣の好みが異なるので、今後は消費者のニーズを考慮に入れた温泉浴衣サービスを期待する。温泉旅行はお風呂以外の情緒的、楽しさが求められる。それに寄与できるのがカジュアルな木綿浴衣であると考ええる。

一方、学習指導要領「家庭」教育においては、伝統的な和装を取り上げ、衣生活文化の継承の重要性を気付くことができるようにすることをねらいにしている[1]。晴れ着のゆかたでクラシックな和装の着付けを覚えることは理想であるが、教育の現場の現実には厳しい状況にあり、多方面で工夫がなされている。カジュアルで手軽な和文化体験の一助として、外国人との交流の異文化体験に活かせることを期待する。

#### 謝 辞

本研究を実施するにあたりご理解とご協力を頂きましたT附属中学校の吉田みづき先生及び中学生の皆様へ心より感謝を申し上げます。

本研究は日本学術振興会(JSPS)の科学研究費の助成を受けて行われました(課題番号15K00749,研究代表者:孫 珠熙)。

#### 参 考 文 献

- [1-1] [www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/\\_icsFiles/afeldfile/.../1384662\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afeldfile/.../1384662_2.pdf)(20180830 閲覧)
- [1-2] 学習指導要領(平成29年告示)解説. 家庭編. 文部科学省. 2018. 7
- [2] キム・K.P. ジョンソン, シャロン・J. レノン, 高木修訳. Appearance of Power「外見とパワー」. 北大路書房. 2004
- [3] 被服心理学研究分科会編. 被服心理学. 日本繊維機械学会. 1988
- [4] 被服心理学研究分科編. 被服心理学演習ノート; ファッションを科学してみよう. 日本繊維機械学

- 会.1994
- [5] 中川早苗. 被服心理学 (新版) Social psychology of Clothing. 日本繊維機械学会. 2004
- [6] 牛腸ヒロミ, 井上真理, 小柴朋子, 清水裕子, 徳井淑子. ものとして心としての衣服. 放送大学教育振興会. 2011
- [7] 豊田秀樹, 拜殿怜奈, 久保沙織, 池原一哉, 磯部友莉恵. 無制限複数選択形式の分割表データに対する因子分析. 心理学研究. 86 (6), 535-544. 2016
- [8] 小林茂雄, 藤田雅夫 編著, 内田直子, 孫珠熙, 内藤章江 著. 装いの心理と行動: 被服心理学へのいざない. アイ・ケイコーポレーション. 2017
- [9] 薩本弥生, 川端博子, 堀内かおる, 扇澤美千子, 斉藤秀子, 呑山委佐子. きもの文化の伝承をめざしたゆかたの着装を含む教育プログラム開発のための中学校技術・家庭科での授業実践. 横浜国立大学教育デザイン研究. 35-44. 2013
- [10] 川端博子, 薩本弥生, 斉藤秀子, 呑山委佐子, 扇澤美千子, 堀内かおる, 井上裕光. ゆかたの着装を題材とする授業実践の試み. 家庭科教育学会誌. 56, 78-89. 2013
- [11] 孫 珠熙. 浴衣の着装体験が温泉地域の活性化やファッションセラピーに及ぼす影響. 富山大学人間発達科学部紀要. 10 (1), 145-159. 2015
- [12] Ju-hee SOHN, N. Kanayama, K. Kamachi, Differences in the Impressions Associated with Yukata Worn at Events and Those Worn at Hot Spring Resorts, and the Differences in Yukata Preferences based on Gender, IFHE2016 (国際家政学会大会) Daejeon Convention Center, Korea. 2016
- [13] 孫珠熙, 中嶋史央里. 若者の和文化体験からみた温泉ゆかたの嗜好傾向. 富山大学人間発達科学部紀要. 11 (3), 39-49. 2017
- [14] 孫珠熙. 富山県の若者における浴衣の装い行動の構造—和文化体験の一助として—. 富山大学人間発達科学部紀要. 12 (1), 95-107. 2017
- [15] 孫珠熙, 表奈緒. 浴衣の評価条件がもたらす印象評価. 富山大学人間発達科学部紀要. 12 (2), 75-83. 2018. 3
- [16] 孫珠熙. 好みの温泉浴衣の類型化にみる女子学生の装い行動. 日本家政学会誌. 69 (1), 27-36. 2018
- [17] 孫珠熙, 小野幸一. 女子学生のファッション意識と女性雑誌との関連. ファッションビジネス学会誌. 15 (3), 67-78. 2010
- [18] 孫珠熙, 蒲池香津代, 渡辺澄子. 共分散構造分析による日韓男子高校生のライフスタイルの比較. 日本家政学会誌. 61 (4), 231-248. 2010
- [19] 孫珠熙. 構造方程式モデリング手法を用いた女子学生のファッション行動と購読女性雑誌の検討— 2008年～2010年の傾向を中心に—. 日本家政学会誌. 64 (3), 31-40. 2013

(2018年8月31日受付)

(2018年10月11日受理)